

# 現道隣接工事における安全対策について

平成29年度 [第29-D3750-01号]

(国) 136号東京五輪会場アクセス道路整備事業工事(Dランプ土工) (1103)

静岡県土木施工管理技士会  
加和太建設株式会社  
杉山晴彦 (CPDS番号:145672)

## 1. はじめに

### 工事概要

本工事は、東京五輪に向けた、伊豆中央道での渋滞緩和を目的とした、掘削土工及び法面工が主となる道路建設工事である。

工事名：平成29年度 [第29-D3750-01号]

(国) 136号東京五輪会場アクセス道路整備事業工事(Dランプ土工) (1103)

発注者：静岡県沼津土木事務所

工事箇所：静岡県伊豆の国市南江間地内

工期：平成30年3月29日～平成30年12月14日

工事内容：道路土工1式(掘削工 11,400m<sup>3</sup>、路体盛土工 680m<sup>3</sup>)

法面工1式(植生工1式、法面吹付工1式、法枠工 860m<sup>2</sup>)

ブロック積工1式、排水構造物工1式、縁石工1式

防護柵工1式、構造物撤去工1式、仮設工1式、伐採工1式



## 2. 現場の問題点

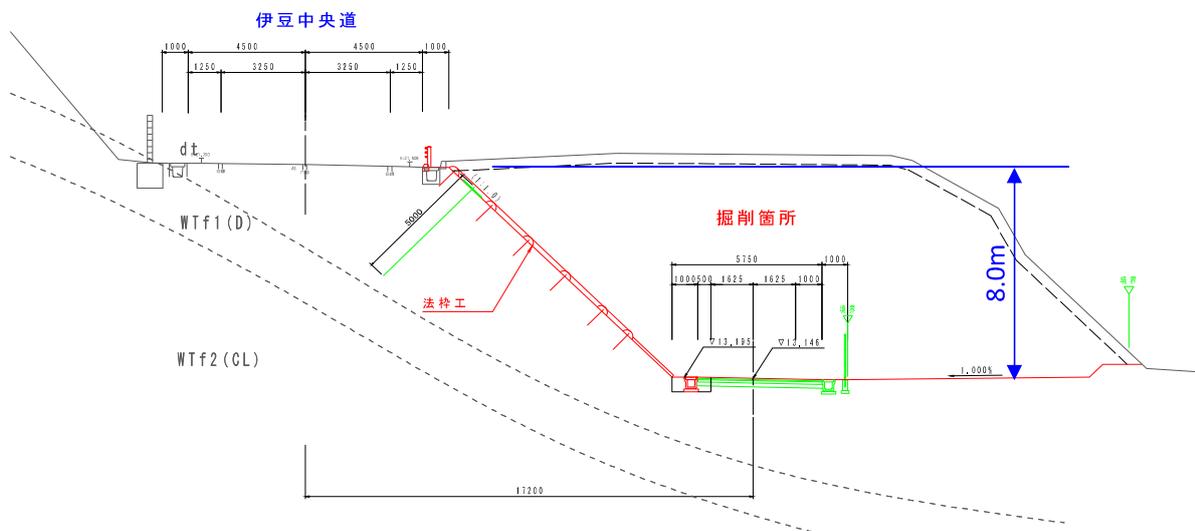
本工事は、伊豆中央道からのオフランプの施工となり、現道のすぐ隣で、重機が作業する工事です。

掘削作業は、伊豆中央道の高さから最大8.0m掘り下げます。

作業時には、一般車両が通行している中での作業となる為、安全対策に十分留意し、施工しなければならない。

防護柵工の施工を行う為には、伊豆中央道で夜間の片側交互通行にて規制を行う必要があった。設計変更に伴い、当初含まれていなかった伊豆中央道の構造物取壊しが追加となり、夜間規制を行う日数が増え、即日復旧が困難である状況から事故の危険性が高まる事が予測された。

また、掘削箇所の民地側には、家屋が隣接しており、作業時には落石の危険性があり、安全対策の検討が必要となる。



### 3. 対応策と適用結果

- ・ 施工順序の検討

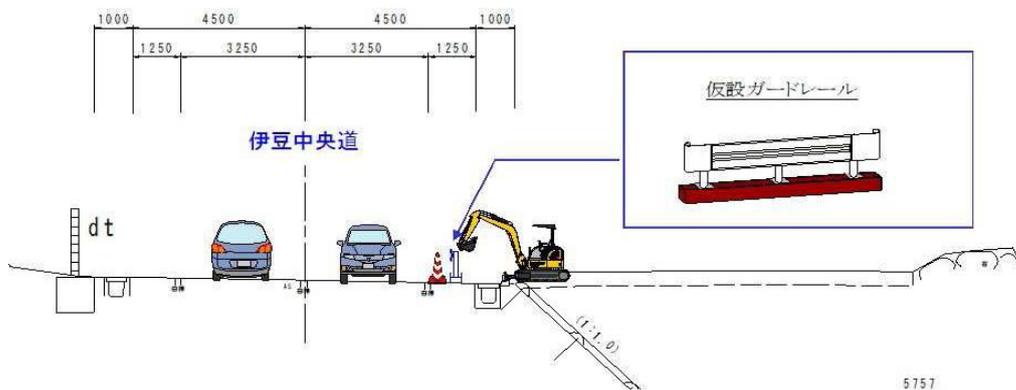
当初は防護柵工の施工を、掘削工及び法面工の施工完了後に行う予定であった。伊豆中央道の夜間施工において即日復旧が必要となる中で、設計変更による構造物取壊し作業は、困難であり昼間での施工が可能であるか検討を行った。

当社上長と再度、現地踏査を行い、社内にて打ち合わせをする事で、伊豆中央道の路肩部に置き式仮設ガードレールを設置する事で、片側交互通行では無く路肩規制に変更する。

仮設ガードレール及び構造物取壊し防護柵工の施工ヤードを確保する為、一部、大型土のうと盛土にて造成する。

検討結果を発注者を交えて道路公社と打ち合わせを行い、昼間施工にて構造物取壊し及び防護柵を施工を行う事が出来た。

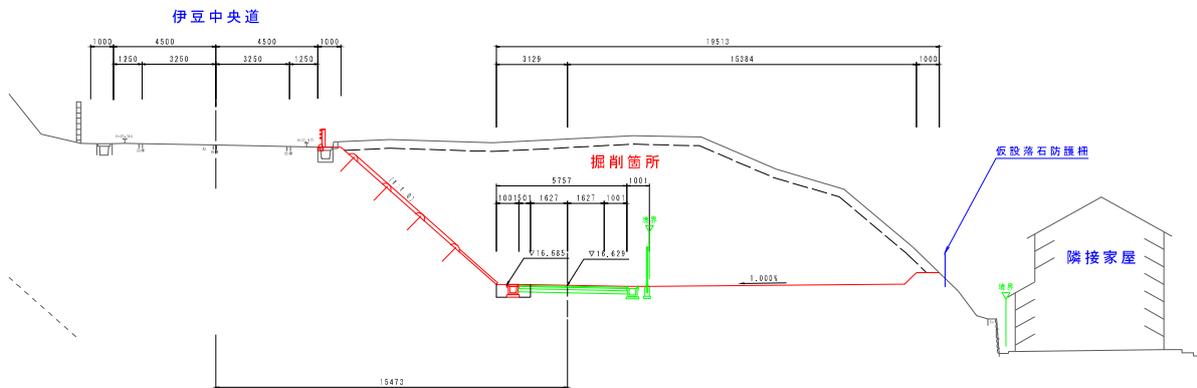
また、防護柵工を先行し施工する事で、一般車両の転落防止対策を兼ねる事もでき、掘削作業をより安全に行うことが出来た。



・近接家屋への落石防止処置

掘削箇所の一部には、家屋が隣接しており掘削作業時に落石の恐れがあった。

下図記載



施工着手前には、家主への工事内容及び施工の説明を行う事で、工事に関して理解をしていただいた。

掘削作業前には、施工業者と施工順序の確認を行い以下の手順にて施工を行った。

①掘削前には、仮設の落石防護柵を設置する。

- ・掘削位置を考慮し、落石防護柵を設置及び移設する。
- ・落石防護柵には、トリカルネットを使用し風対策を行う。

②掘削作業時では、民地側を一山残しにて施工を行う。

上記の作業を徹底する事で、民家への落石も無く施工を行うことが出来た。



以上の安全対策により、無事故にて施工を完了する事が出来た。

#### 4. おわりに

今回は、現道及び家屋が隣接する中での土工事が主である工事であった。  
施工箇所における設計変更も発生します。

現状及び変更項目も考慮し、当初施工計画を再度検討する事でより安全  
に施工を行う事も出来ると思います。

また、社内での打ち合わせを重ねていく事で、多様な施工方法を検討す  
る事もでき、安全且つより良い施工を行う事が出来ると思います。

今後の工事においても、施工前の安全対策と近隣住民への配慮を忘れず  
に、工事を完成していきたいと思ひます。